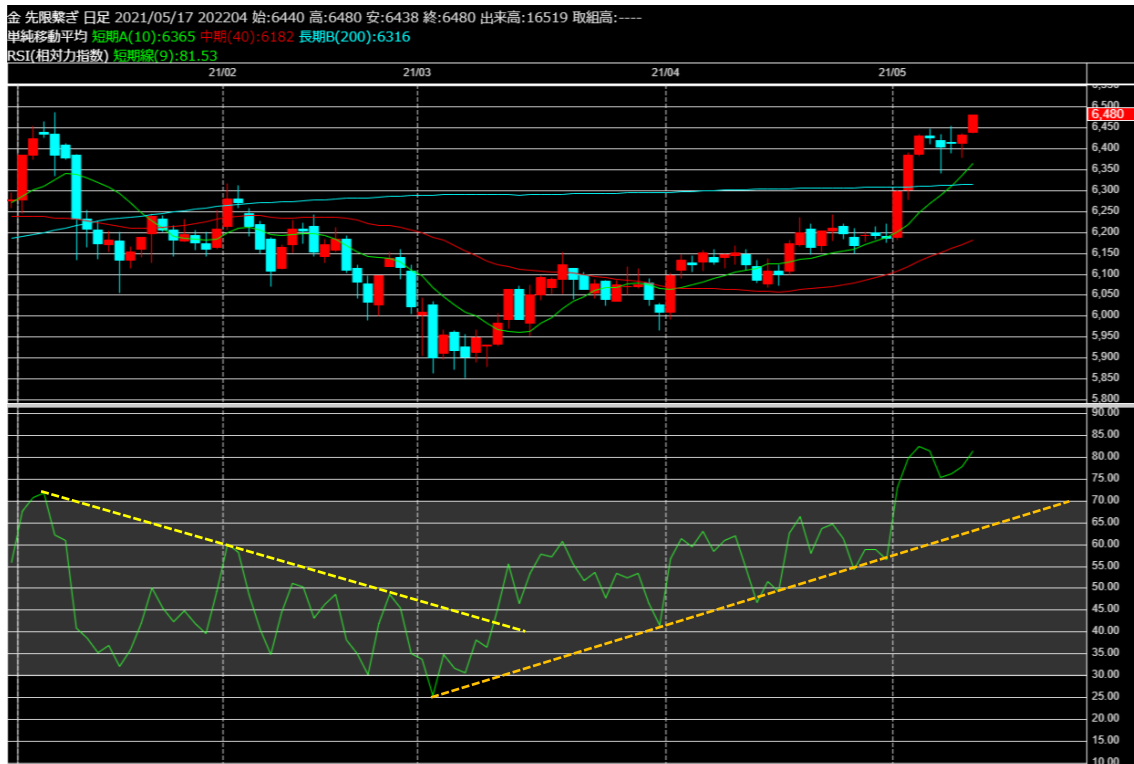


＜金標準、今年の高値 6488 円の達成感に注意＞



(出所：オアシス)

先週は消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）のインフレ指標の発表を受け、インフレ率の高まりを受けて、長期債が売られ金利が上昇し為替市場ではドル高の動きを強まるなど、インフレ商品の金標準も一時 6350 円まで下値を試している。しかし週末には小売売上高、鉱工業生産、ミシガン大消費者信頼感指数が尽く事前予想を下回るなど、連銀総裁や FOMC メンバーの一時的なインフレの高まりの発言を擁護する結果となっている。そのため金標準先物はドル安：金利低下を受けた買い戻しの動きを強め、今年 1 月の高値 6488 円に迫っている。特に今週はパウエル FRB 議長が「資産購入の縮小について話す時期ではない」と会見した FOMC の議事録が 19 日は公開される事から、週末の経済指標や FOMC 議事録の公開を控えて高値迫いを見せる確率が高く、6488 円を試す値動きには注目したい。

(2021 年 5 月 16 日記載)

＜テクニカル＞

先週に指摘した様に相対力指数（9 日）では、強弱の分岐点である 50%を上回り強気を維持しながら、相対力指数の上昇ラインを維持するなど弱気に転じるサインは見受けられない。しかし相対力指数が 80%を超えるなど、強気の継続と買われ過ぎの狭間に位置しており、目先 75%を下回るポイントでは調整を示すサインとなるため、終値ベースで 75%を下回った場合は、ロングポジションの利益確定を多様化するのが良いと思える。